

## Zurab Topuridze

### ズラブ・トプリゼ

地域: Guria

オーナー: Zurab Topuridze ズラブ・トプリゼ

地区、村: Dablatsikhe ダブラツィヘ村

醸造・栽培責任者: Zurab Topuridze ズラブ・トプリゼ

HomePage:



#### 出会い:

2012年11月のとある機会に、チュハベリ・ロゼ／イベリエリ・マラニ 2011 を味わい、その可能性と個性にうたれ、すぐにジョージア行きを決めました。緊急に設けた旅程の中で、ジョージア滞在はわずか 36 時間。短い滞在時間で何ができるか、と黒海周辺の地図をながめながら考えました。ワインバー「グヴィーノ・アンダーグラウンド」には、伝統的な醸造で造られた十数人の造り手のワインをテイスティングできるということは事前に分かっていた。が、すべてを飲むわけにはいかず、あらかじめ目安をつけておく必要がある。このたびは訪問をしない塚原と、情報をいろいろと検索してみました。独特の人間鑑定術を有する塚原が「きつと、この人物だな」と、最も気になった人がラマズ・ニコラゼでした。ラマズ・ニコラゼは、マネジャーとしてワインバー「グヴィーノ・アンダーグラウンド」を運営しています。彼はソリコ・ツァイシュヴィ( Soliko Tsaishvi / アワ・ワイン・ワイナリー)と共に、2010年にクヴェヴリ(甕)・ワイン協会を設立しました。ラシーヌが独自に選んでご紹介する10人(うち5人のワインが入荷済み)の造り手は、この会の重要なメンバーです。グルジアの甕仕込みワインは、スローフードのプレジディオ(保護しなければならないもの)に認定されています。

#### \* 合田泰子 とジョージアワインの出会い [ 日録風に ]

2010年6月 ボルドーにて。ルネッサンス・デ・アペラシオンで、「アワ・ワイン」を試飲。

(2011年、2012年、2013年「ヴィニ・ヴェリ」にて「アワ・ワイン」を試飲。)

2012年11月13日 ニース在住の写真家 Keiko & Maika さんに、ズラブとイアゴのワインを試飲させて頂く。

2012年11月22日 Keiko & Maika さんにご案内いただき、ジョージア初訪問。

イアゴ・ワインズ(イアゴ・ビタリシュヴィリ)訪問。

グヴィーノ・アンダーグラウンドにて、ラマズとズラブ・トプリゼに会い、彼らのワインをテイスティングする。運よくトビリシに来ていたガイオス・ソプロマゼに会い、ワインをテイスティングする。

2012年11月23日 グリアのイベリエリ・マラニ(ズラブ・トプリゼ)を訪問。

2013年1月28日 パリのシャトープリアンにて、クヴェヴリ・ワイン協会の試飲会。

ニコロズ・アンターゼ(通称ニキ)他、5名に会う。ニキのワインの仕入れを決める。

2013年6月2日 二回目のジョージア訪問。ズラブを再訪。

2013年6月3日 ラマズの案内で、ディディミ、ガイオス、ラマズのマラニを訪問。

2013年6月4日 Amiran Vepkhvadze, Archil Guniava, 他3つのマラニを訪問。

2013年6月5日 イアゴを再訪 アンダーグラウンドにて Zaza Darsavelidze に会う。

Alex Tsikhelishvili のワインをテイスティング。

創業年：2008年

#### ドメイン解説：

家族代々受け継がれてきた蔵元。ワイン造りにおけるジョージアの伝統を復活させるべく、ジョージア固有の（前世から絶滅の危機にさらされている）品種を復元し、忘れ去られたこれらジョージアの品種を用いて自然なワインを生産することを蔵元の目標としています。

サペラヴィ（広くジョージアで栽培されている）種と希少な品種であるチュハヴェリとスヒラトゥバニ種を現在栽培しワインを造っていますが、2012年から新たにグリアとサメグレロの地域の固有品種6種の栽培を始め、新しいブドウ畑作りを始めました。2013年にはグリアの地域の固有品種30種類以上を植える予定です。

会社名である Iberieli（イベリエリ）はジョージア人の先祖にあたるコーカサスの民族でのひとつで数千年も前からワイン造りをしていた民族です。

#### 畑について

**土壌：**Saperavi 種は粘土と灰色から茶色の砂壤土、残りの品種は粘土と茶色から赤色の砂壤土

自社ブドウ畑面積：7ha

自社栽培ブドウ品種：Chkhaveri, Skhilatubani, Jani, Tetri Kamuri, Ojaleshi, Chvitiluri, Godaaturi, Saperavi

年間生産ボトル本数：2500～3500本